

ぼくの惑星探査計画

八重田 義智

ぼくは、宇宙船で地面があまり固くなく、豊富な金属があり、水を保てる惑星を探したいです。いつかは地球からその惑星に移住するときに、少なくとも土地、恒星の光、水が必要だと思っからです。広い宇宙の中で、その惑星が見つかるかならば、ぼくは土を掘って強度を調べ、地下住居に適しているか検討します。また、豊富な金属があれば重厚な製作や機械製作などが可能になります。さらに、水が固体や気体ではなく、液体の状態が存在できるかどうか、あるいは氷が川のように流れているかどうかも研究します。

地球では人は暗闇を怖がり夜に明ることを求めました。が、広い宇宙で、太陽から離れれば暗さは増すばかりです。それであれば、地上ではなく、宇宙ではたかさんの隕石が降り注ぎ、大きいものは地上に落ちてきく様々なものを破壊します。また地上は太陽が当たらないと

まはとて毛寒くなります。そうもた敵しい環
境で、人が暮らすのは難しいので、地大住居
を作り、暗闇や寒さとも関係なくします。

太陽光はすごいですね。人に時間の概念や
温かさ、ゆらぎなどを与えてきました。人は
日が出たら朝が来たと思い、着替えて一日の
行動を始め、少しでも眠いから寝ていると、
お母さんに「早く起きなさい」としかかれま
す。そして日が落ちれば人は眠りたくなります。
一日のサイクルは、地球の自転により、太陽

の当たり方で決まりました。惑星によつて、
自転速度は違つてから、人が入りし暮らせる
よう、何か基準となる宇宙時間が必要とある
しょう。次

次に、惑星に豊富な資源があるかどうか調査
し、生活に必要なエネルギーと製造や修理な
ど仕事に使うエネルギー量を有しているのか
確認します。また、太陽光のほかにも水素や液
体水素を電力に変換して機械製作の電力に利
用する。このとき、宇宙での仕事は、機械を

直したり、空調を整えたり、日々の観察など
 すべてが宇宙で進むいくために必要な活動
 になります。生活のほとんどが機械化され、
 着替えをしたり、ご飯を食べたりと自分のこ
 とはするけれど、定期的に運動したり、病気を
 診断、治療を機械が行えるようになったとい
 るでしょう。さらさらと器材の運搬や製造に資
 材が限りれた宇宙でも製造や修理して生活し
 ていけるよう研究してみたいです。

さらに、生活に必要な水が液体で存在でき
 るよう研究したいです。植物の栽培だけでなく、
 動物も飼えるような空間を目指したいで
 す。気体は液化して固体は溶かして利用でき
 るようにします。地上では、水が蒸発や凍っ
 てしまったり地大貯留できるようになります。
 井戸のようなくみ上げて使います。

理科で教えた宇宙の内容からでは大変だ
 なと思うだけで、目見知りぬ宇宙の環境
 の中で、日々の生活を考えるのは楽しいです。
 今でも、地球での生活が離れがたいですが、

ぼくが先世になつた
たり、将来守由でも人が生
活できるだけの器材を製作して
いける科学者
になりたいです。